

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立熊野高等学校	内川 さやか
学校所在地		
(〒 649 - 2195) 和歌山県西牟婁郡上富田町朝来 6 7 0 番地 tel 0739 (47) 1004 fax 0739 (47) 4200		
担当者名		役職名・担当教科
河野 剛士		教諭・地理歴史科
〔学校の概要〕 和歌山県の中央部、田辺市・白浜町に隣接する上富田町に位置する。古くは“口熊野”とも呼ばれ、熊野古道が本格的な山道〔中辺路〕に分け入るところである。町内の八上王子・稲葉根王子は世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に追加登録されており、熊野参詣道について学習する意義は高い。 本校は1923年紀南農学校として開学し、その後、熊野林業学校と改称し、以来林業を学ぶことができる高校として発展してきた。平成16年に総合学科高校に改編、平成20年に看護科が移設された。令和4年度には創立百周年を迎えた。 純朴でどの子もよくあいさつをし、部活動に積極的である。また、町内唯一の高校であることから、上富田町と学校クラブ・サポーターズリーダーを中心に、イベントへのボランティア参加や合同防災訓練、地域の高齢者への声かけ等を行っており、地域との関わりが深い学校である。なお、1学年では平成16年以来、学年の学習として熊野古道ウォークを実施している。		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 2, 3年生 61名	職員 4名	会議室
実践研究テーマ		
世界遺産・熊野古道と地域の歴史と文化		
実践教科等名	単元名	
学校設定科目 社会文化研究（地歴公民科）	地域の歴史と文化	
〔キーワード〕 世界遺産 熊野古道 地域 観光 情報発信		
〔単元目標〕 (1) 世界遺産が設けられた経緯や意義、世界・国内の遺産の状況など基本的な事項について理解する。 (2) 「紀伊山地の霊場と参詣道」に関する基本的な知識について学ぶとともに、世界遺産としての熊野古道がどのような価値を持つものなのかを理解する。 (3) (1) (2)での理解を踏まえ、現地学習を通して熊野古道の魅力を体験的に学び、高校生の視点からその魅力や価値、保全のあり方について考える。 (4) フォトエッセイ作成を通して、これまでの学習や体験で得たことを情報発信する立場からまとめる。		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体 50 時間 （「世界遺産・熊野古道と紀南地方の歴史と文化」 10 時間 ）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
和歌山県世界遺産センター 次世代育成事業（世界遺産講座・現地学習）		

実践校に関する事項			
〔単元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	事前学習Ⅰ「THE空海」 空海の業績を通して、高野山における霊場の基本的な知識やその価値について理解する。	高野山で花開いた密教がどのようにして熊野に実を結んだのか、両者の関係について考えさせる。	〔知識・技能〕 〔思考・判断・表現〕 ワークシート
2	事前学習Ⅱ「武蔵坊弁慶」 地元の英雄弁慶の活躍と様々なエピソードを紹介しながら、闘鶏神社の由来について理解する。	源平合戦において裏舞台となった熊野の役割について考えさせる。	〔知識・技能〕 〔思考・判断・表現〕 ワークシート
3	世界遺産入門「紀伊山地の霊場と参詣道」 世界遺産センター職員による講義を通して、「紀伊山地の霊場と参詣道」の基本的な知識やその価値について理解する。	巡回指導を行うとともに、活発な学習を促す。	〔知識・技能〕 〔思考・判断・表現〕 ワークシート
4	熊野古道現地学習 世界遺産マスターの方々によるガイドのもと、写真撮影をしながら滝尻王子から高原熊野神社までを歩く。	「熊野古道フォトエッセイ」の作成意図を明示し、目的を持って現地学習に臨めるように事前学習を行う。	〔思考・判断・表現〕 〔主体性〕 情報収集の成果 (写真等)
5	熊野古道フォトエッセイ作成 現地学習で撮影した写真と調べ学習をもとに、600～700字で熊野古道の良さを語り、その魅力をアピールする。	再度作成意図を説明し、単なる史跡説明や感想文で終わらないよう、読み手に魅力をアピールするようにアドバイスした。	〔思考・判断・表現〕 〔主体性〕 作成したフォトエッセイ
〔単元学習の成果と課題〕 この単元は科目の設置以来、学習の柱の1つに位置づけてきた。事前学習では、世界遺産や参詣道に興味を持ちながら、その意義や価値を理解するように工夫を行っている。その上で、現地を歩くことによって、生徒自身の感性と学習内容が結びつき、より深い学びにつながっている。 フォトエッセイ作成は半ば恒久化した課題となっている。本年度は成果物の提出に伴い、例年よりも古道の魅力アピールに重点を置き「見栄え」も重視するよう指導したが、単なる史跡紹介や感想文で終わっているものもあった。			
〔世界遺産学習の効果〕 学校設定科目「社会文化研究」のねらいに「和歌山の歴史文化を理解すること」がある。 世界遺産学習を設定することで、身近な地域の自然や文化が世界的にも認められた価値を持つことを知り、単に知識としてではなく、継承・保存するべきものとして、地域の文化を理解することができる。多少なりとも、社会参加への意欲も養うことができた。			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕 社会文化研究では上富田町内の調査を学習活動の一環に位置づけている。授業時数の関係から難しい点もあるが、次世代育成事業の成果を町内の世界遺産学習に発展させて、世界遺産を活かしたまちづくりを考えるとといった学習課題にも取り組みたい。			

様式 2

令和 6 年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

熊野古道現地学習〔令和 6 年 1 2 月 1 0 日（火）実施〕

2・3 年生 5 6 名（5 班編成）が参加した。

世界遺産マスターによるガイドのもと、滝尻王子～高原熊野神社を歩いた。道中、胎内くぐり等で解説を聴くとともに、フォトエッセイ作成のため、各自が魅力に感じた風景を撮影し、古道の魅力を感じながら、フィールドワークを行った。

《日程》

1 3 : 1 0 滝尻王子

1 5 : 3 0 高原熊野神社

熊野古道フォトエッセイ作品例

現地学習の際撮影した写真の中から 1 枚のみを選び、その写真を通して熊野古道の魅力を伝えるエッセイ。古道に関する情報は 200 字程度におさえ、古道の魅力をアピールする記述を中心にしている。

単なる感想文になっているものもあったが、自身が撮影した写真を見直しながら、過去や外国人に思いをはせる記述も見られた。

Power of nature

○熊野古道ってなに？

熊野古道とは熊野三山へと通じる参詣道の総称であり、熊野参詣道とも呼ばれる。紀伊半島に位置し、道は三重県、奈良県、和歌山県、大阪府に跨る。2004 年に世界文化遺産に登録され今年で登録 21 周年を迎える。悠久の歴史を持ち、絶えず変わりゆく歴史の中で今なおその形を保ち続けている。

○熊野古道を歩いてみて

先日そんな崇高な熊野古道を訪れる事ができた。天気も良く、まず出迎えてくれたのは見渡す限りの青々とした山々。しかし一歩山へ踏み込むとそこは一気に不可思議で神秘的な姿に様変わりした。無作為に生い茂る木々や根の一部が階段状になっている所など自然の恐ろしさや荘厳さえひしひしと肌で感じた。

○先人に学ぶ

また実際にルートを登ってみると木の枝や石、段差などに足を取られ体制を崩しそうになったことが多々あった。当時の人や天皇もこの道を通して参拝していたと考えれば昔の人々は現代の人よりも体力や精神力が強かったのではないのだろうか。現代の人々は何かあるたびにスマホやパソコンなどの自分以外のものに頼ろうとする傾向にあると私は考える。というか私自身がそうだったからである。

スマホばかりに頼ると世間一般には何も考えない、創造出来ない人になってしまうとよく例えられる。昔の人はそれでこそ熊野古道を自らの手で作り出し、そのルートを後世の人に残してきた。私たちに足りないものは誰かが敷いたレールを歩くのではなく自分からレールを作る力だと思う。

↓実際に晴れていると綺麗な景色が見られます！ぜひ足を運んでみてください！



○まとめ

とまあ大きなスケールの話になったが熊野古道は私に様々な視点の考え方を与えてくれた。登り切った時の達成感や皆と力を合わせて登るのは高校生活ではあまりできない良い経験になった。

熊野と私たち

私たちが熊野古道を登っているとき、外国人観光客や他所からの来客が多く訪れていたのが印象的であった。
熊野古道の魅力に気づいているのは我々だけでない。むしろ近辺に住む私たちよりも歴史的価値を見出していると感じる。

熊野古道の来訪者数は年々増加傾向にある。田辺市熊野ツーリズムビューロー利用者は2011年～2019年まで右肩上がりであり、2019年に関しては外国人観光客が国内観光客の約3倍にも跳ね上がっていた。しかし、2020年新型コロナウイルスの影響で売上高が9割低減する。そこで熊野古道の風景を保存していくためクラウドファンディングを行った結果、目標の200万円を遥かに上回る308万8千円の支援が行われた。コロナ禍で途絶えかけた熊野古道とみなの絆は再形成されたといっても過言ではない。
コロナ禍を乗り越えた2021年頃からは再び観光者数が増加しており、今後も伸び進んでいく見込みである。



熊野古道は四季折々の表情を私たちに見せてくれる。春は満開の桜を目の当たりにでき、夏は若々しい青葉が生い茂っている。

秋は赤や黄に染まった紅葉が散りばめられていて、冬は神秘的な銀世界が広がっている。私たちが訪れたのは12月だったが、綺麗で鮮やかな紅葉を見ることができた。

熊野の美しい景色を保存していくためにも、この熊野古道で自然に触れ、歴史に触れ、その土地の魅力に自ら触れていくことが重要になってくる。
和歌山が誇る世界遺産を、我々の手で守っていこう。